

雄勝中央病院歯科口腔外科を受診した 24 症例, 34 例で男性 13 例, 女性 11 例であった。平均年齢は 55.1 歳であった。

方法は, 症例を術前の CT 所見より嚢胞の位置, 嚢胞の数, 嚢胞壁の性状について分類した。

内視鏡システムは, 米国ストライカー社製光源照明システム, 硬性内視鏡, 鉗子などを使用した。手術は全例全身麻酔下で行った。内視鏡下に下鼻道に嚢胞を開窓し, 隔壁のあるものはそれを除去した。開窓部以外の嚢胞壁は全例保存した。

結果; 術後 3 か月以上経過した症例での開窓部の状態を CT および内視鏡で確認し, 開在 29 例, 狭小 4 例, 閉鎖 1 例であった。

考察; この方法は眼窩下神経や眼窩内の損傷を引き起こしにくく, 眼窩下壁の欠損症例にも安全な方法である。従って術後は頬部に麻痺感や違和感などを起こすこともなく, さらに, 口腔内に創部を作らず, 侵襲も少ないため, 術後の腫脹も少なく両側性の場合も同時に手術が可能である。

今後, 術後性上顎嚢胞の第一選択の手術法になると思われる。

演題 10. IPS-Empress® に対するレジンセメントの色調調整効果に関する研究

○伊藤 邦彦

岩手医科大学歯学部歯科補綴学第二講座

天然歯に近似した色調が得られるオールセラミッククラウンが注目されている。しかし, 高い透明性のため, 変色支台歯や金属支台築造を行った場合などは合着用セメントにより試行錯誤的にクラウンの色調を調整しているのが現状である。この研究の目的は, レジンセメントの色彩調整効果ならびにその使用基準を明らかにすることである。実験サンプルはセラミック層 (IPS-Empress のレイヤリング用インゴットのシェード A1, A3, A4), レジンセメント層 (Opaque, Light, Blue, Red, Orange, Brown を用いた単色および混色) および支台歯層 (セラミックインゴット, Pd 合金, 金合金) から構成される。同一シェードのインゴットによる支台歯層とセラミック層を重ねた場合の色調を基準色とし, 支台歯層を金属とした場合の色調変化を分析した。次に, 金属支台歯層とセラミック層の間にレジンセメント (単色および混色) を介在させた場合の色調変化を分析した。これにより, 支台歯層

をセラミックインゴットから金属にしたことにより変化した色調が, セメントによりどれだけ基準色に回復できるかを検討した。混色セメントは Opaque と, Light, Blue, Red, Orange, Brown の 2 種の混合とし, Opaque に対しそれぞれを 20%, 40%, 60%, 80% 混合する 4 種類のセメントを用いた。非接触型微小面積測色用分光光度計 CAS-ID1 を用いて測色し, CIELAB 表色系の色差 dE, dL* および dC* について分析した。Opaque 色セメントの単色使用および Light, Orange, Red, Brown との混合使用はセラミック試料の明度および彩度を増加させ, 臨床的に問題とならない色差に改善した。適切な色調のセメントはセラミック試料に対する色調調整効果を有していたが, その程度はセラミックのシェードおよび下地金属の種類により異なった。適切なセメント配合により, IPS-Empress によるオールセラミッククラウンの色調調整が可能であることが確認された。

演題 11. 合着用カラーレジンセメントの混色色調予測に関する研究

○沢藤 太

岩手医科大学歯学部歯科補綴学第二講座

ポーセレンラミネートベニアクラウンは, カラーレジンセメントを混合して使用することにより微妙な色調を調整している。この調整は, 合着時に試行錯誤的に行われているのが現状であり, 合着用レジンセメントの色彩学的特性が色調構築の重要な要件である。したがって混合したカラーレジンセメントの色調予測が可能であれば, 色調構築に際してきわめて有効である。この研究の目的は混合したカラーレジンセメントの色調を Kubelka-Munk 理論を応用して客観的に予測することにある。

Laminabond Composite Paste (Shufu) の Opaque と Light, Modifier の Red と Blue の 4 種類を使用し, 各々 50, 100, 200, 300, 400, 500 μ m の 6 段階の単色サンプルを各厚径につき 3 個ずつ製作した。Opaque+Light, Opaque+Red, Opaque+Blue の混色サンプルは 50wt-% の混合割合とし, 厚径は 50 μ m で各組み合わせにつき 3 個ずつのサンプルを製作した。非接触型微小面積測色用分光光度計 CAS-ID1 により各単色サンプルを白バック, 黒バックで測色し, シェードおよび厚径ごとに Kubelka-Munk 理論により 16 波長の散乱係数と吸収係数を求めた。得られた散乱係数と吸収係数を基礎